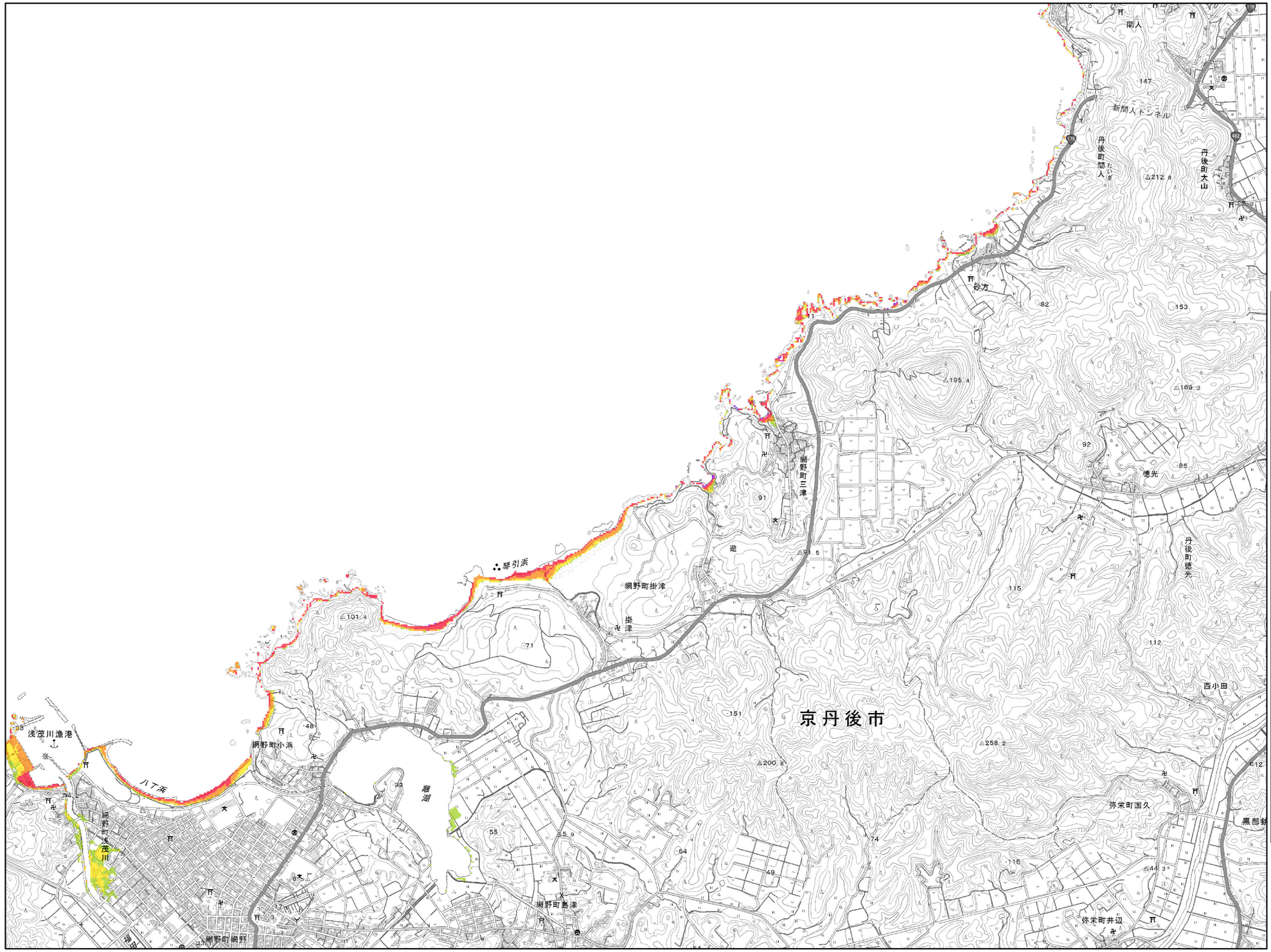
京都府津波浸水想定図

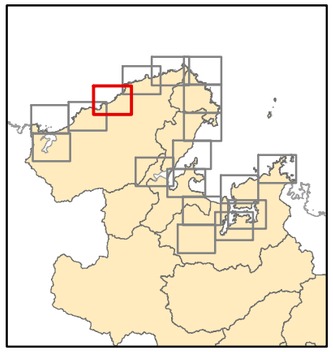
京丹後市(3)

図面番号: 15 ／ 18



N
W E
S

1:25,000



深さ	概況
4.0m以上	ほとんどの家が流出する
2.0m～4.0m未満	ほとんどの家が全壊する
1.0m～2.0m未満	全壊被害が出始める
0.3m～1.0m未満	過半数の家が半壊する
0.3m未満	人が歩くことが困難になる

【留意事項】

○「津波浸水想定」は、津波防災地域づくりに関する法律（平成２３年法律第１２３号）第８条第１項に基づいて設定するもので、津波防災地域づくりを実施するための基礎となるものです。

○「津波浸水想定」は、最大クラスの津波が悪条件下において発生した場合に想定される浸水の区域（浸水域）と水深（浸水深）の最大値を重ね合わせて表したものです。

○最大クラスの津波は、現在の科学的知見を基に、過去に実際に発生した津波や今後発生が想定される津波から設定したものであり、**これよりも大きな津波が発生する可能性がないというものではありません。**

○浸水域や浸水深は、局所的な地面の凹凸や建築物の影響のほか、地震による地盤変動や構造物の変状等に関する計算条件との差異により、**浸水域外でも浸水が発生したり、浸水深がさらに大きくなったりする**場合があります。

○浸水域や浸水深は、避難を中心とした津波防災対策を進めるためのものであり、津波による災害や被害の発生範囲を決定するものではないことにご注意下さい。

○浸水域や浸水深は、津波の第一波ではなく、第二波以降に最大となる場所もあります。

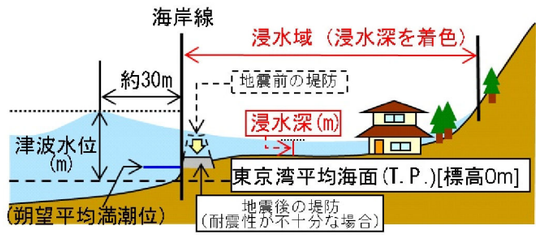
○地盤高が低い地域については、防潮堤が壊れている場合、津波が収束した後でも水が引かず、長期間に渡って湛水することがあります。

○「津波浸水想定」では、津波による河川内や湖沼内の水位変化を図示していませんが、津波の遡上等により、実際には水位が変化することがあります。

○「津波浸水想定」では、砂州は洪水等により流失する可能性があるため、浸水域や浸水深を図示していませんが、浸水しないというものではありません。

○津波断層モデルの新たな知見（内閣府・中央防災会議、文部科学省、隣接県等）がまとまってきた場合や構造物の整備・強化がある程度進んできた場合等には、必要に応じて見直していきます。

○今後、数値の精査や表記の改善等により、修正の可能性があります。



0 0.5 1 km

この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図25000（地図画像）を複製したものである。（承認番号 平27情複、第1284号）